

『「水道事業における分散型システムの導入手引き」検討委員会』 の設立について

1. 設立趣旨

日本の水道は必要不可欠なものとなっている一方、我が国は本格的な人口減少社会を迎えることから、水道施設の更新にあたっては、今後の水需要や水道施設の更新需要等の長期的な見通しを踏まえ、地域の実情に応じて水の供給体制を適切な規模に見直すことが必要とされている。

中山間地や過疎地等の地域においては、人口減少や人口密度の低下等により従来型の施設整備を持続させることが困難となっている場合がある。こうした地域においては、費用の抑制を図る観点から、運搬送水や小規模な水道施設等の分散型システムの導入について検討が進められているが、その方法論については十分に示されていない。

このため、人口減少社会という局面において、給水区域内における水道施設の集約型と分散型のベストミックスについて検討を行い、その方法論を示すことを目的として、『「水道事業における分散型システムの導入手引き」検討委員会』を設立するものである。

2. 主な検討課題

水道事業において分散型システムを導入する手法の検討及び「水道事業における分散型システムの導入手引き」の策定について